

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（大気環境調査）

- ※1   : 現計画からの変更点
- ※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※3 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数
- ※4 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）			
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値（場内中央）		平均値（村田町役場）		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度	H21～ H27年度	H28～ R3年度				
大気環境調査	年4回	2地点	大気環境基準	ジクロロメタン	μg/m <sup>3</sup>	150	0.66	0.82	0.65	0.84	基18年 (100%)	年1回 (1～2月)	②-A	場内中央及び村田町役場ともに基準値適合が継続しており、両地点で大きな差異は認められないため、頻度を年1回にする。
				ベンゼン	μg/m <sup>3</sup>	3	0.71	0.48	0.84	0.52	基18年 (100%)			
				トリクロロエチレン	μg/m <sup>3</sup>	200	0.69	0.23	0.20	0.12	基18年 (100%)			
				テトラクロロエチレン	μg/m <sup>3</sup>	200	0.054	0.024	0.048	0.019	基18年 (100%)			
			指針値	塩化ビニルモノマー	μg/m <sup>3</sup>	10	0.0046	0.0021	0.0059	0.0020	基18年 (100%)			
				1,3-ブタジエン	μg/m <sup>3</sup>	2.5	0.068	0.019	0.098	0.029	基18年 (100%)			
				アクリロニトル	μg/m <sup>3</sup>	2	0.010	0.003	0.015	0.004	基18年 (100%)			
				クロロホルム	μg/m <sup>3</sup>	18	0.12	0.15	0.13	0.14	基18年 (100%)			
				1,2-ジクロロエタン	μg/m <sup>3</sup>	1.6	0.10	0.08	0.10	0.08	基18年 (100%)			
				水銀及びその化合物	ngHg/m <sup>3</sup>	40	1.6	1.3	1.7	1.4	基13年 (100%)			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（大気環境調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※3 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数
- ※4 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）			
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値（場内中央）		平均値（村田町役場）		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度	H21～ H27年度	H28～ R3年度				
大気環 境調査	年4回	2地点	目標値	硫化水素	ppm	0.02	0.00028	0.00028	0.00023	0.00020	基18年 (100%)	年1回 (1～2月)	②-B	いずれの項目も臭いを感じないほどの低濃度を保っているため、頻度を年1回にする。
				メタン	mg/m <sup>3</sup>	—	1.7	1.7	1.5	1.5	—			
				アンモニア	ppm	—	0.018	0.013	0.011	<0.1	—			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（硫化水素連続調査（連続測定））

※1 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

※2 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数

※3 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況							改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（場内境界）		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度				
硫化水素 連続調査	24時間	2地点	管理目 標基準	硫化水素	ppm	0.02	0.015	<0.005	基14年 (94%)			④現状維持

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（放流水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）			
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由	
							H21～ H27年度	H28～ R3年度						
放流水水 質調査	年4回	1地点	排水基 準 項目	pH	—	5.8—8.6	8.2	8.1	基18年 (100%)	—	年1回 (8～9 月)	②-A	基準値適合が継続しているため、 頻度を年1回にする。	④現状維持
				1,4-ジオキサ ン	mg/L	0.5	0.040	0.038	基12年 (100%)	—				④現状維持 (浸透水の場外への流出の有無にかか る マーカーとして有効であるため)
				BOD	mg/L	60	44	20	基18年 (100%)	—				
				SS	mg/L	60	35	16	基18年 (100%)	—				
				鉛	mg/L	0.1	0.0020	<0.001	基18年 (100%)	—				
				砒素	mg/L	0.1	0.0040	0.0030	基18年 (100%)	—				
				ほう素	mg/L	50	4.2	2.8	基18年 (100%)	—				
				ふっ素	mg/L	15	1.1	0.96	基18年 (100%)	—				

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（放流水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度					
放流水水 質調査	年4回	1地点	排水基 準 項目	アンモニア等	mg/L	200	33	12	基18年 (100%)	—	年1回 (8～9 月)	②-A	基準値適合が継続しているため、 頻度を年1回にする。
				大腸菌群数	個/cm <sup>3</sup>	3000	14000	6900	基6年 (93%)	—			
				ノルマルヘキサ ン抽出物質 (鉱物油)	mg/L	5	0.60	0.90	基17年 (100%)	—			
				ノルマルヘキサ ン抽出物質 (動植物油)	mg/L	30	3.4	2.8	基17年 (100%)	—			
				フェノール含 有量	mg/L	5	0.030	0.050	基17年 (100%)	—			
				亜鉛含有量	mg/L	2	1.1	0.24	基17年 (100%)	—			
				溶解性鉄含有 量	mg/L	10	0.80	0.48	基17年 (100%)	—			
				溶解性マンガ ン含有量	mg/L	10	1.9	1.1	基17年 (100%)	—			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（放流水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度					
放流水水 質調査	年4回	1地点	排水基 準 項目	ベンゼン	mg/L	0.1	<0.001	<0.001	基17年 (100%)	定17年	終了する	③-A	定量下限値未滿が継続しているた め、調査を終了する。
				総水銀	mg/L	0.005	<0.0005	<0.0005	基18年 (100%)	定18年			
				有機リン化合 物	mg/L	1	<0.1	<0.1	基18年 (100%)	定18年			
				六価クロム化 合物	mg/L	0.5	<0.02	<0.02	基18年 (100%)	定18年			
				1,2-ジクロロ エタン	mg/L	0.04	<0.0004	<0.0004	基18年 (100%)	定18年			
				銅含有量	mg/L	3	<0.03	<0.03	基17年 (100%)	定17年			
				クロム含有量	mg/L	2	<0.02	<0.02	基17年 (100%)	定17年			
	年2回			ダイオキシン 類	pg-TEQ/L	10	0.13	0.030	基20年 (100%)	—	年1回 (7～9 月)	②-A	基準値適合が継続しているため、 頻度を年1回にする。

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（放流水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未達継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未達継続年数	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度					
放流水水 質調査	年4回	1地点	その他 項目	塩化物イオン	mg/L	—	210	130	—	—		④現状維持	
				水温	℃	—	27.4	26.9	—	—			
				流量	m <sup>3</sup> /秒	—	0.006	0.0031	—	—			
				流量	m <sup>3</sup> /秒	—	0.006	0.0031	—	—			
				電気伝導率	mS/m	—	193	190	—	—			
				硫酸イオン	mg/L	—	27	8.1	—	—			
				透視度	度	—	>50	>50	—	—			
				溶存酸素量	mg/L	—	12	11	—	—			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（放流水水質調査）

※1      : 現計画からの変更点

※2      : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点

※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数

※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度					
放流水水 質調査	年4回	1地点	その他 項目	無機体炭素	mg/L	—	200	170	—	—	終了する	③-B	濃度は減少傾向である。また、アンモニアと共存すると魚毒性が強まるとの知見があるが、これまで当該物質が原因と思われる河川での魚類の斃死は確認されていないため、調査を終了する。



「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料(河川水水質調査)

- ※1      : 現計画からの変更点
- ※2      : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基○年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：(基準値に適合した回数/測定を開始してからの全測定回数) × 100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況										改正案(令和5年度から)		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値(上流)		平均値(下流)		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21~ H27年度	H28~ R3年度	H21~ H27年度	H28~ R3年度					
河川水 水質調査	年4回	2地点	環境基準 健康項目	硝酸性窒素 及び亜硝酸 性窒素	mg/L	10	0.68	0.52	0.71	0.55	基18年 (100%)	—	年1回 (8~9 月)	②-A	河川上下流ともに基準値適合が継 続しているため、頻度を年1回に する。
				1,4-ジオキ サン	mg/L	0.05	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	基18年 (100%)	—			
				鉛	mg/L	0.01	0.00011	0.00017	0.0018	0.0025	基18年 (100%)	—	終了する	①-A	河川上下流ともに定量下限値未滿 が継続しているため、調査を終了 する。
				砒素	mg/L	0.01	0.00071	0.00050	0.0015	0.0011	基18年 (100%)	—			
				ほう素	mg/L	1	0.041	0.023	0.046	0.039	基18年 (100%)	—			
				ふっ素	mg/L	0.8	0.038	0.027	0.12	0.10	基18年 (100%)	—			
				ベンゼン	mg/L	0.01	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	基18年 (100%)	定18年			
				六価クロム 化合物	mg/L	0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	基18年 (100%)	定18年			
				総水銀	mg/L	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	基18年 (100%)	定18年			
				1,2-ジクロ ロエタン	mg/L	0.004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	基18年 (100%)	定18年			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料(河川水水質調査)

※1      : 現計画からの変更点

※2      : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点

※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数

※5 基準適合率：(基準値に適合した回数/測定を開始してからの全測定回数) × 100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況										改正案 (令和5年度から)		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値 (上流)		平均値 (下流)		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21~ H27年度	H28~ R3年度	H21~ H27年度	H28~ R3年度					
河川水 水質調査	年4回	2地点	環境基準 生活環境 項目	pH	—	6.5-8.5	7.5	7.6	7.5	7.6	基18年 (100%)	—	④現状維持		
				BOD	mg/L	2	1.2	3.0	1.5	3.0	基0年 (70%)	—			
				SS	mg/L	25	10	14	12	19	基2年 (88%)	—			
				溶存酸素量	mg/L	7.5	10	11	10	11	基0年 (96%)	—			
				大腸菌群数 →大腸菌数	個/cm <sup>3</sup>	3000	367	314	385	412	基14年 (98%)	—			
	その他 項目	塩化物イオン	mg/L	—	18	14	18	17	—	—	④現状維持				
		水温	℃	—	15	15	14	14	—	—					
		流量	m <sup>3</sup> /秒	—	1.1	1.7	1.0	1.0	—	—					
		電気伝導率	mS/m	—	19	17	18	18	—	—					
		硫酸イオン	mg/L	—	14	12	14	11	—	—					

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料(河川水水質調査)

- ※1      : 現計画からの変更点
- ※2      : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：(基準値に適合した回数/測定を開始してからの全測定回数) × 100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況										改正案 (令和5年度から)		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値 (上流)		平均値 (下流)		基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時 期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21~ H27年度	H28~ R3年度	H21~ H27年度	H28~ R3年度					
河川水 水質調査	年4回	2地点	その他 項目	透視度	度	—	44	41	43	39	—	—	④現状維持		
				アンモニア	mg/L	—	0.048	0.090	0.11	0.13	—	—	④現状維持 (基準値に適合していないBODIについて、硝化細菌由来の酸素消費の影響を検討する際に、原料となる窒素化合物の動向を確認することが重要であるため)		
				無機体炭素	mg/L	—	9.0	8.2	9.7	8.8	—	—	終了する	①-B	河川上下流ともに濃度は10mg/L程度と低濃度で推移しており、また、アンモニアと共存すると魚毒性が強まるとの知見があるが、これまで当該物質が原因と思われる河川での魚類の斃死は確認されていないため、調査を終了する。

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（バイオモニタリング）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況									改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値（上流）		平均値（下流）		基準値適合 継続年数	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度	H21～ H27年度	H28～ R3年度				
バイオモニ タリング	年4回	2地点	—	AOD値	%	400	609	622	551	575	基4年 (92%)	年1回 (11～12 月)	②-D	H30年5月以降、AOD値は基準値 である400%を上回っており、 上下流で大きな差異は見られ ていない。また、魚類の斃死 も確認されていないが、本処 分場による生態学的な影響を 確認する唯一の調査であるた め、頻度を年1回にして継続 する。

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（浸透水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基○年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数、定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）					
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由			
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度								
浸透水 水質調査	年4回	11地点	地下水等 検査項目	鉛	mg/L	0.01	0.060	0.017	基0年 (96%)	—	④現状維持					
				砒素	mg/L	0.01	0.069	0.030	基0年 (91%)	—						
				1,4-ジオキサン	mg/L	0.05	0.093	0.21	基0年 (88%)	—						
				ベンゼン	mg/L	0.01	0.018	0.010	基6年 (98%)	—				年1回 (5～6月)	②-A	基準値適合が継続しているため、頻度を年1回にする。
				塩化ビニルモノマー	mg/L	0.002	0.0004	<0.0002	基7年 (99%)	定6年				年1回 (5～6月)	②-C	定量下限値未滿が継続しているが、最終処分場の維持管理基準において、浸透水の水質検査は地下水等検査項目を年1回以上測定することと規定されているため、頻度を年1回にする。
				総水銀	mg/L	不検出	<0.0005	<0.0005	基18年 (100%)	定11年						
				六価クロム化合物	mg/L	0.05	0.03	<0.02	基18年 (100%)	定9年						
	1,2-ジクロロエタン			mg/L	0.004	0.0020	<0.0004	基18年 (100%)	定8年							
	アルキル水銀			mg/L	不検出	<0.0005	<0.0005	基18年 (100%)	定18年	④現状維持						
	カドミウム			mg/L	0.003	<0.0003	<0.0003	基18年 (100%)	定18年							

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（浸透水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基○年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度					
浸透水 水質調査	年1回	11地点	地下水等 検査項目	全シアン	mg/L	不検出	<0.1	<0.1	基18年 (100%)	定18年	④現状維持		
				ポリ塩化ビ フェニル	mg/L	不検出	<0.0005	<0.0005	基18年 (100%)	定18年			
				トリクロロエ チレン	mg/L	0.01	<0.002	<0.002	基17年 (99%)	定15年			
				テトラクロロ エチレン	mg/L	0.01	<0.0005	<0.0005	基18年 (100%)	定18年			
				ジクロロメタ ン	mg/L	0.02	<0.002	<0.002	基18年 (100%)	定15年			
				四塩化炭素	mg/L	0.002	<0.0002	<0.0002	基18年 (100%)	定18年			
				1,1-ジクロロ エチレン	mg/L	0.1	<0.002	<0.002	基18年 (100%)	定18年			
				1,2-ジクロロ エチレン	mg/L	0.04	<0.004	<0.004	基18年 (100%)	定12年			
				1,1,1-トリク ロロエタン	mg/L	1	<0.0005	<0.0005	基18年 (100%)	定18年			
				1,1,2-トリク ロロエタン	mg/L	0.006	<0.0006	<0.0006	基18年 (100%)	定15年			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（浸透水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度					
浸透水 水質調査	年1回	11地点	地下水等 検査項目	1,3-ジクロロ プロペン	mg/L	0.002	<0.0002	<0.0002	基18年 (100%)	定18年	④現状維持		
				チウラム	mg/L	0.006	<0.0006	<0.0006	基18年 (100%)	定18年			
				シマジン	mg/L	0.003	<0.0003	<0.0003	基18年 (100%)	定18年			
				チオベンカル プ	mg/L	0.002	<0.002	<0.002	基18年 (100%)	定18年			
				セレン	mg/L	0.01	<0.002	<0.002	基18年 (100%)	定18年			
	年4回	11地点	その他 項目	BOD	mg/L	20	87	63	基0年 (57%)	—	④現状維持		
				ほう素	mg/L	1	31	15	基0年 (36%)	—			
				ふっ素	mg/L	0.8	2.9	2.7	基0年 (32%)	—			
				SS	mg/L	—	1800	150	—	—			
				pH	—	—	8.6	8.4	—	—			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（浸透水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点
- ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点
- ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載
- ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数
- ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況							改正案（令和5年度から）				
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由	
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度						
浸透水 水質調査	年4回	11地点	その他 項目	塩化物イオン	mg/L	—	1400	970	—	—	④現状維持			
				水温	°C	—	30	25	—	—				
				電気伝導率	mS/m	—	804	670	—	—				
				酸化還元電位	mV	—	-88 375	-27 391	—	—				
				硫酸イオン	mg/L	—	330	470	—	—				
				硝酸性窒素及 び亜硝酸性窒 素	mg/L	10	5.4	0.8	基18年 (100%)	—				④現状維持 (基準値に適合していないBODについて、硝化細菌由来 の酸素消費の影響を検討する際に、原料となる窒素 化合物の動向を確認することが重要であるため)
				アンモニア	mg/L	—	330	330	—	—				
				重炭酸イオン	mg/L	—	3000	3200	—	—				
		年2回			ダイオキシン 類	pg-TEQ/L	1	110	21	基〇年 (86%)	—	④現状維持		



## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（地下水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点  
 ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点  
 ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載  
 ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数  
 ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								改正案（令和5年度から）					
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由			
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度								
地下水水質調査	年4回	10地点	地下水等 検査項目	鉛	mg/L	0.01	0.059	0.031	基2年 (96%)	—	終了する	①-A	定量下限値未滿が継続しているため、調査を終了する。			
				砒素	mg/L	0.01	0.068	0.028	基6年 (97%)	—						
				1,4-ジオキサン	mg/L	0.05	0.0060	0.0090	基18年 (100%)	—				④現状維持 (浸透水の場外への流出の有無にかかる マーカーとして有効であるため)		
				ベンゼン	mg/L	0.01	<0.001	<0.001	基18年 (100%)	定18年						
				塩化ビニルモノマー	mg/L	0.002	<0.0002	<0.0002	基18年 (100%)	定18年						
				総水銀	mg/L	不検出	<0.0005	<0.0005	基18年 (100%)	定11年						
				六価クロム	mg/L	0.05	<0.002	<0.002	基18年 (100%)	定18年						
				1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004	0.0005	<0.0004	基18年 (100%)	定18年						
			その他 項目	BOD	mg/L	20	21	27	基0年 (99%)	—	④現状維持					
				ほう素	mg/L	1	0.21	0.28	基18年 (100%)	—						

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（地下水水質調査）

- ※1      : 現計画からの変更点  
 ※2      : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点  
 ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載  
 ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数  
 ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況							改正案（令和5年度から）			
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度					
地下水水質 調査	年4回	10地点	その他 項目	ふっ素	mg/L	0.8	0.26	0.26	基18年 (100%)	—	④現状維持		
				SS	mg/L	—	6600	720	—	—			
				pH	—	—	8.8	8.2	—	—			
				塩化物イオン	mg/L	—	270	220	—	—			
				水温	℃	—	23.1	25.0	—	—			
				電気伝導率	mS/m	—	117	144	—	—			
				酸化還元電位	mV	—	57 419	63 640	—	—			
				硫酸イオン	mg/L	—	57	58	—	—			
				硝酸性窒素及 び亜硝酸性窒 素	mg/L	10	1.1	5.8	基18年 (100%)	—			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（地下水水質調査）

- ※1  : 現計画からの変更点  
 ※2  : 第35回評価委員会で提示した素案からの変更点  
 ※3 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載  
 ※4 基〇年：令和4年度上半期時点での基準値適合継続年数，定△年：令和4年度上半期時点での定量下限値未滿継続年数  
 ※5 基準適合率：（基準値に適合した回数／測定を開始してからの全測定回数）×100

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況							改正案（令和5年度から）				
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			基準値適合 継続年数 (基準適合率)	定量下限値 未滿継続年数	頻度 (調査時期)	見直し内容及 び理由	理由	
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度						
地下水水質 調査	年4回	10地点	その他 項目	アンモニア	mg/L	—	19.0	15.0	—	—	④現状維持 （基準値に適合していないBODについて、硝化細菌由来の酸素消費の影響を検討する際に、原料となる窒素化合物の動向を確認することが重要であるため）	年1回 (5～6月)	②-B	濃度が減少傾向又は低濃度で推移しているため、頻度を年1回にする。
				重碳酸イオン	mg/L	—	590	900	—	—				
				硫化物イオン	mg/L	—	2.9	0.1	—	—				
	年2回			ダイオキシン類	pg-TEQ/l	1	1.3	2.9	基〇年 (93%)	—	④現状維持			

「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（発生ガス等調査，下流地下水状況調査，放流水状況調査）

※1     ：現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名		現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						改正案（令和5年度から）		
		頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由
							基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
発生ガス 等調査	発生ガス 調査	月1回	17地点	—	硫化水素	ppm	—	400	160		④現状維持	
					二酸化炭素	%	—	50	17			
					酸素	%	—	24	22			
					メタン	vol%	—	98	100			
					発生ガス量	L/分	—	8.4	2.5			
					孔内温度	°C	—	36.5	39.0			
					気温	°C	—	37.6	35.8			

「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（発生ガス等調査，下流地下水状況調査，放流水状況調査）

※1     ：現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名		現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						改正案（令和5年度から）		
		頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由
							基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
発生ガス 等調査	浸透水 調査	月1回	13地点	-	電気伝導率	mS/m	-	850	650	年4回の浸 透水水質調 査で代替す る	①-C	いずれの項目も水質の一般理化学性を確認するためのものであるが、毎月の測定結果に大きな変動もない。また、同様の項目を年4回の浸透水水質調査でも確認しているため、毎月の調査を年4回の調査で代替する。 なお、調査頻度の縮小分を補完するため、大雨で処分場の出入口付近の観測井戸が冠水した際※に、処分場周辺の水質への影響の有無を確認する目的で、浸透水を採取し、電気伝導率、酸化還元電位及びpHを測定することとしており、処分場及びその周辺の状況を把握する体制を構築する。 ※処分場近くの降雨量観測地点の測定結果をオンラインで確認できる体制をとっており、100mm/日を超えるなどの集中豪雨が見られた際は、処分場周辺の冠水の有無を確認するため、処分場に赴くこととしている。
					酸化還元電位	mV	-	-130 430	-120 420			
					塩化物イオン	mg/L	-	1300	840			
					水温	℃	-	30.9	26.7			
					水位	m	-	略	略			
					pH	-	-	8.8	8.6			
					硫酸イオン	mg/L	-	320	510			
					透視度	度	-	>50	>50			

「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（発生ガス等調査，下流地下水状況調査，放流水状況調査）

※1     ：現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
下流地下水状況調査	月1回	8地点	-	電気伝導率	mS/m	-	110	130	年4回の地下水水質調査で代替する	①-C	<p>いずれの項目も水質の一般理化学性を確認するためのものであるが、毎月の測定結果に大きな変動もない。また、同様の項目を年4回の地下水水質調査でも確認しているため、毎月の調査を年4回の調査で代替する。</p> <p>なお、調査頻度の縮小分を補完するため、大雨で処分場の出入口付近の観測井戸が冠水した際※に、処分場周辺の水質への影響の有無を確認する目的で、地下水を採取し、電気伝導率、酸化還元電位及びpHを測定することとしており、処分場及びその周辺の状況を把握する体制を構築する。</p> <p>※処分場近くの降雨量観測地点の測定結果をオンラインで確認できる体制をとっており、100mm/日を超えるなどの集中豪雨が見られた際は、処分場周辺の冠水の有無を確認するため、処分場に赴くこととしている。</p>
				酸化還元電位	mV	-	510	510			
				塩化物イオン	mg/L	-	190	260			
				水温	℃	-	34.3	29.5			
				水位	m	-	略	略			
				pH	-	-	7.9	8.0			
				硫酸イオン	mg/L	-	44	66			
				透視度	度	-	>50	>50			

「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（発生ガス等調査，下流地下水状況調査，放流水状況調査）

※1     ：現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
放流水状況調査	月1回	1地点	—	電気伝導率	mS/m	—	220	190	年4回の放流水水質調査で代替する	①-C	いずれの項目も水質の一般理化学性を確認するためのものであるが、毎月の測定結果に大きな変動もない。また、同様の項目を年4回の放流水水質調査でも確認しているため、毎月の調査を年4回の調査で代替する。 なお、調査頻度の縮小分を補完するため、大雨で処分場の出入口付近の観測井戸が冠水した際※に、処分場周辺の水質への影響の有無を確認する目的で、放流水を採取し、電気伝導率、酸化還元電位及びpHを測定することとしており、処分場及びその周辺の状況を把握する体制を構築する。 ※処分場近くの降雨量観測地点の測定結果をオンラインで確認できる体制をとっており、100mm/日を超えるなどの集中豪雨が見られた際は、処分場周辺の冠水の有無を確認するため、処分場に赴くこととしている。
				酸化還元電位	mV	—	480	560			
				塩化物イオン	mg/L	—	190	130			
				水温	℃	—	35.6	28.8			
				pH	—	—	8.5	8.3			
				硫酸イオン	mg/L	—	18	7.4			
				透視度	度	—	>50	>50			

## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（地中温度調査）

※1   : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況							改正案（令和5年度から）				
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（H16-13とLoc. 1aとの差）			地点	Loc. 1aとの温度差の推移 (H21～H27年度の平均→H28～R3年度の平均)	地点	頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由
						基準値	H21～H27年度	H28～R3年度						
地中温度調査	年4回	廃棄物埋立区域内11地点 No. 3, No. 5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, H26-3a, H26-3b  廃棄物埋立区域外11地点 Loc. 1, Loc. 1a, Loc. 1b, Loc. 3, Loc. 4, H16-1b, H16-15, H17-19, H26-1a, H26-1b, H26-2	-	地中温度	℃	-	20.4	13.1	No. 3	9.0→5.5	廃棄物埋立区域内9地点 No. 3, No. 5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15  廃棄物埋立区域外1地点 Loc. 1a	年2回 (8～9月と1～2月)	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査頻度縮小の理由                              対照地点との地中温度差は調査時期によって変動していないが、廃棄物の分解反応の進行の程度を把握するとともに、処分場の廃止基準への適合状況を本評価委員会で報告するため、年2回の調査は必要と考え、調査時期については外気温の温度差が大きい夏季と冬季に設定する。</li> <li>・調査地点縮小の理由                              埋立区域内の2地点（H26-3a, H26-3b）及び埋立区域外の10地点（Loc. 1, Loc. 1b, Loc. 3, Loc. 4, H16-1b, H16-15, H17-19, H26-1a, H26-1b, H26-2）の地中温度と、比較対照地点であるLoc. 1aの地中温度を比較すると、温度差はほとんど見られない又は比較対照地点のLoc. 1aのほうが温度が高い傾向にあるため、上記12地点を調査対象外とする。</li> </ul>
									No. 5	6.5→4.8				
									H16-3	15.4→7.8				
									H16-5	4.4→3.7				
									H16-6	3.3→1.8				
									H16-10	11.4→7.4				
									H16-11	9.1→5.0				
									H16-13	16.7→11.1				
									H17-15	6.4→4.6				
									H26-3a	-0.3→0.0				
									H26-3b	0.0→-0.2				
									Loc. 1	0.7→0.3				
									Loc. 1b	0.5→0.3				
									Loc. 3	-1.4→-2.3				
									Loc. 4	-0.2→0.4				
									H16-1b	-1.1→-1.1				
									H16-15	1.2→1.3				
									H17-19	-3.0→-3.3				
									H26-1a	-				
									H26-1b	1.1→1.0				
H26-2	-1.1→-1.4													



## 「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（地下水位調査（連続測定））

※「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画（平成28年度改正）					改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由
地下水位調査	24時間	廃棄物埋立区域内11地点	—	地下水位, 降水量	m, mm			④現状維持
		廃棄物埋立区域外10地点	—	地下水位	m			

「工事後のモニタリング計画」見直し案 基礎資料（多機能性覆土状況調査，地表ガス調査）

※「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値			頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由
						基準値	H21～ H27年 度	H28～ R3年度			
多機能性覆土状況調査	年1回	多機能性覆土 施工箇所13地点	—	硫化水素	ppm	—	<0.1	<0.1			④現状維持
		比較対照地点 (通常覆土施 工箇所)13地 点	—	硫化水素	ppm	—	4	<0.1			

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						改正案（令和5年度から）		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値			頻度 (調査時期)	見直し内容及び理由	理由
						基準値	H21～ H27年 度	H28～ R3年度			
地表ガス調査	年1回	5地点（H22年 度表層ガス調 査で比較的濃 度の高い硫化 水素検出地点 の周辺）	—	硫化水素	ppm	—	<0.1	<0.1			④現状維持